

## 令和5年度 第3回仙台市環境審議会

### 議事要旨【抜粋】

日時：令和5年12月7日（木）15：00～17：00

場所：TKP ガーデンシティ仙台 ホール1

#### I 次第

##### 1 開 会

##### 2 議事事項

(1) 「杜の都環境プラン（仙台市環境基本計画）」及び「仙台市地球温暖化対策推進計画」の答申（案）について

##### 3 報告事項

(1) 国の「脱炭素先行地域」への選定について

(2) 国の「自然共生サイト」認定取得について

(3) 今泉工場建替基本構想（中間案）について

(4) 「温室効果ガス削減アクションプログラム」に係る第一計画期間（令和2年度～4年度）の取りまとめ結果について

##### 4 閉 会

#### II 出席委員数

出席 20名

欠席 5名

#### III 議事要旨（抜粋）

議長（風間会長）	続いて、報告事項（3）今泉工場建替基本構想（中間案）について、事務局より説明をお願いする。
事務局（今泉工場再整備担当課長）	（資料4-1、4-2、4-3に基づき説明）
議長（風間会長）	今泉工場建替基本構想（中間案）の説明について、ご質問、ご意見を願います。
山田一裕委員	仙台市はプラスチックの分別回収をしているが、資料4-3の13ページにも計画ごみ質の話があり、いわゆるプラスチックのごみが減っていけば、生ごみの比率が高くなって燃えにくくなり、ごみ焼却をしてもエネルギー回収ができないといったこともあり得ると思う。プラスチックごみの混入割合や、どこまで分別できるかという想定の下で、焼却炉や発電事業に計画を盛り込むのかどうかや、ごみ質の結果でどのようなスタンスで臨んでいくのか、現時点で考えていることがあれば教えてほしい。

事務局（今泉工場再整備担当課長）	<p>製品プラスチックの一括回収に伴う焼却炉における熱量の変化については、注視して観察を進めているところであるが、現在のところ目立った変化はない状況である。</p> <p>一方で、製品プラスチックの回収量は増えているところであり、総量的にどの程度まで製品プラスチックの回収が進めば熱量の変化が出るのかは、他都市でもデータはなく、我々が先行している部分であるので、注視しながら今後の焼却方式の選定を進めていかなければならない。建替検討委員会における専門家からも、そこは注意して観察していくべきだというご意見もいただいているので、現況を踏まえ、今後の変化動向も予測しながら、検討を進めてまいりたい。</p>
谷田貝泰子委員	<p>災害対策で、災害に対して強靱な施設とあり、とてもいいことだと思ったが、場所が名取川の下流で、浸水対策を施すとなっているが、実際にこれまで被災したことはあるか。</p>
事務局（今泉工場再整備担当課長）	<p>国交省のホームページにおいて、名取川の氾濫の過去の実績がまとめられているが、昔は、川の氾濫があった地域だろうと想定される。現在では、河川の堤防が整備されており、それ以降は川の氾濫による被害はないものと認識しているが、東日本大震災において、堤防も一部崩れたところがあった。その点については、国で補強の検討作業を進めている状況であると認識している。</p> <p>一方で、河川氾濫ではなく、内水氾濫の被害が七郷地区などで過去にあったが、仙台市のハザードマップでは、河川氾濫が起きた場合は、3メートル未満の浸水範囲であると指摘を受けている。また、地震による液状化も心配される地域であるが、現在のごみの収集効率を配慮すると、まちの中心部を真ん中にして三角形に配置されている焼却施設のレイアウトは平時における収集効率がとても優れていると認識しており、災害リスクを見据えた施設とすることにより、現在の収集体制を維持してまいりたいと考えている。</p>